

18.サンタマリア教会



ポルト中心部から 1 時間ほど離れた小さな町の丘の上に建築家アルヴァロ・シザ設計によるサンタマリア教会は佇んでいる。

町を訪れる観光客のほとんどが教会に向かうためか、電車を降りると同時に町の人から教会の案内をしてもらえ、目的地へと辿り着けた。

両側を半円に切り取られた形が印象的なファサードとは対照的に両側が押し出された白いヴォリュームの裏面が内部の聖堂を介してある種の 2 面性を含んでいる。また、建物下部に貼られた花崗岩の外壁はシザの建築ではよく見受けられる手法の一つであるが、建物全体から外壁面の割合を読み解いて計画されている様子が覗えた。

中へ入ると、細長いスリットの窓、高窓から天井にしみだした光、整頓された木の椅子、水が流れる音などによる「神聖な場」といった聖堂らしい独特の空気を作り上げていた。また、非常に内向的な空間であるように見えたりするのだが、実際にこの空間を歩き回ってみると、要所要所で人間の視線の高さから視界が開けるので、立ち位置によって映り変わっていくような「閉じているけど、周囲に開いた構成」が印象的であった。

田中 宏幸